研究 • 調查報告書

分類番号		報告書番号	担当	
A-133		20-084	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之	

題名 (原題/訳)

Trends in cannabis views and use among American adults: Intersections with alcohol consumption, 2002-2018

アメリカの成人における大麻への見解と使用の傾向:アルコール消費との交差点、2002年から 2018年

執筆者

Salas-Wright CP, Hai AH, Oh S, Alsolami A, Vaughn MG.

掲載誌

Addict Behav. 2021 May;116:106818. DOI: 10.1016/j.addbeh.2021.106818.

キーワード	PMID
アルコール、大量飲酒、大麻、マリファナ、傾向	33453586

要旨

目的:本研究は、アメリカ成人の禁酒者、非過飲酒者、および過飲酒者を対象に、大麻への見解と使用の傾向を調べることを目的とした。

方法:2002~2018年の「薬物使用と健康に関する全米調査」のデータを使用した(18歳以上の米国成人、n=664,152)。過去1カ月の大麻使用状況調査と、大麻不承認に関する質問「大人がマリファナやハシシを1、2回試していることをどう思うか?」の回答を得た(「強く不承認」か「やや不承認、または承認も不承認もしない」)。飲酒状況は、自己申告により、過去12か月の"禁酒者"、昨年飲酒者のうち、過去1か月の過飲酒が1回以上あった者を"過飲酒者"、ない者を"非過飲酒者"とした。米国疾病対策予防センターのガイドラインに沿って、調査調整ロジスティック回帰分析により、人口統計学的要因をコントロールした調査年の大麻への見解・使用との関連を調べた。

結果: $2002\sim2018$ 年、大麻使用開始に「強く不承認」と回答したものの割合は、有意に減少した(調整オッズ比[AOR]=0.947, 信頼区間[CI]= $0.945\sim948$)。大麻使用率は、非過飲酒者(AOR=1.070, CI= $1.065\sim1.076$)、過飲酒者(AOR=1.039, CI= $1.035\sim1.042$)、禁酒者(OR=1.099, CI= $1.088\sim1.111$)で有意に増加し、この傾向は禁酒者で最も大きかった。 $2003\sim2018$ 年の大麻不承認と使用との関連は、禁酒者で変化がなく、非過飲酒者($2003\sim2006$: AOR=0.154, CI= $0.135\sim0.176$; $2014\sim2018$: AOR=0.221, CI= $0.200\sim0.246$)、過飲酒者($2003\sim2006$: AOR=0.297, CI= $0.275\sim0.321$; $2014\sim2018$: AOR=0.361, CI= $0.333\sim0.391$)で弱まった。

結論: 2002~2018年、対象者の大麻使用に難色を示す割合は減少し、使用は増加した。大麻不承認が使用に与える影響は、飲酒者で弱まったが、禁酒者で弱まらず、大麻使用の可能性が高い者において、大麻の見解の影響が弱まっている可能性が示唆された。